

令和2年度第1回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

1 日時

令和2年7月1日（水） 午前9時30分～

2 開催場所

千葉市義議会 議会棟3階 第3委員会室

3 出席者

（委員）神野委員長、種谷副委員長、椎原委員、関委員、廣崎委員、高梨委員、藤田委員、桜井委員、谷委員

（事務局）那須生活文化スポーツ部長、小名木文化振興課長、吉野文化振興課長補佐、川口文化振興班主査、渡邊主任主事、鈴木主任主事、濱田主事

4 議題

- （1）委員長・副委員長の選任
- （2）文化施策の評価について（令和元年度評価対象事業）
- （3）令和2年度評価対象事業の選定について
- （4）第2次千葉市文化芸術振興計画年次報告書について
（令和元年度実施事業、令和2年度実施予定）
- （5）その他

5 議事の概要

- （1）委員長・副委員長の選任
委員の互選により、委員長に神野委員、副委員長に種谷委員が選出された。
- （2）文化施策の評価について（令和元年度評価対象事業）
令和元年度評価対象事業について1次評価シートの報告と意見交換を行った。
- （3）令和2年度評価対象事業の選定について
時間の都合上省略し、後日、事務局から令和2年度評価対象事業(案)を提示することとなった。
- （4）第2次千葉市文化芸術振興計画年次報告書について
時間の都合上省略し、資料について質問や意見がある場合は、事務局まで問い合わせさせていただくことになった。
- （5）令和元年度芸術文化振興事業補助金交付事業の実施報告と令和2年度芸術文化振興事業補助金採択事業の概要及び日程について
時間の都合上省略し、資料について質問や意見がある場合は、事務局まで問い合わせさせていただくことになった。

6 会議経過

【那須生活文化スポーツ部長】

＜仮議長として議事進行＞

それでは、委員の皆様にご承認いただきましたので、委員長と副委員長が決まるまで、仮議長として会の進行をさせていただきます。

議題に入る前に、本日は委員改選後最初の会議ですので、当会議の概要につきまして、事務局から説明します。

＜事務局説明＞

【那須生活文化スポーツ部長】

それでは、議題1「委員長及び副委員長の選任」を行います。

ただいま事務局から説明がありましたとおり、委員長・副委員長の選任は、千葉市文化振興会議設置条例の第4条第2項に基づき、委員の皆様の互選により選出することとされています。

どなたか立候補や推薦される方はいらっしゃいますか。

【廣崎委員】

はい。委員長には振興会議を長く経験されており、文化振興に深い思いを持っていらっしゃる神野委員を、副委員長には千葉市の文化芸術にとっても尽力されている種谷委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【那須生活文化スポーツ部長】

ただいま、廣崎委員から、神野委員を委員長に、種谷委員を副委員長にとの推薦がありましたが、いかがでしょうか。

＜異議なし＞

【那須生活文化スポーツ部長】

それでは、委員長は神野委員、副委員長は種谷委員に決定します。

仮議長を務めさせていただきましたが、委員長が選任されましたので、ここで委員長を交代させていただきます。神野委員長は委員長席に、種谷様は副委員長席に移動をお願いします。

＜席移動＞

【那須生活文化スポーツ部長】

神野委員長と種谷副委員長におかれましては、簡単にご挨拶をお願いします。

<神野委員長・種谷副委員長 挨拶>

【那須生活文化スポーツ部長】

ありがとうございました。それでは以降の議事進行は、神野委員長にお願いします。

【神野委員長】

それでは、次第に従いまして、議事を進行してまいります。

よろしく願いいたします。

まず、議題2の「文化施策の評価について（令和元年度評価対象事業）」に進みたいと思います。こちらについて、まず事務局から説明をお願いします。

<事務局説明>

【神野委員長】

評価の流れについて、ご説明をいただきました。今の説明に関して、ご質問はありますか。ご質問はないようですので、1次評価シートの説明に進みたいと思います。説明を含め1事業あたり15分、6事業で1時間半を予定しております。それでは、資料1-1「2020おもてなしプロジェクト」について千葉市文化振興財団より説明をお願いいたします。

<文化振興財団説明>

【神野委員長】

ありがとうございました。

それでは、2次評価シートを作成するための討議に入りたいと思います。討議の流れにつきましては、先ほど事務局からご説明がありましたとおり、1次評価シートに基づき、1次評価の内容が妥当かどうかという視点でご議論いただきます。ご質問やご意見等ありますでしょうか。

【高梨委員】

周知度についてですが、文化センターの建物内を見ても、周知するものが目につかないというような状況がある気がします。学生たちも頑張っているのもう少し工夫が必要かと思いました。日程等は周知されていると思いますが、耳に届かないのは、非常に残念だなと思います。

【神野委員長】

財団のほうでは、今の話のご意見について、今後検討していくことなどがありましたら、今どのように、それを捉えているかをお話いただきたいと思います。

【文化振興財団・花澤アーツステーション室長】

情報発信については、紙ベース媒体やSNS等、色々と活用はしているのですが、学生団体と一緒にやっ

ておりますので、主催者側だけでなく、学生側から発信していただくとか、そういった協力体制をとってやっていけたらと考えています。そのあたりは検討してまいりたいと思います。

【谷委員】

このプロジェクトの評価ということですけど、このプロジェクト自体は、令和2年度以降も、継続するのでしょうか。

【文化振興財団・花澤アーツステーション室長】

オリンピックが延期となったということもありますが、次年度に向けてということもありますので、継続していくという考えです。

【谷委員】

オリンピックが延期になったというのはいろいろ影響があったと思いますが、この活動は面白いと思います。若い方が参加して、千葉市の文化に焦点を当てている。オリンピックが実施できればそれはいいですが、新型コロナのことがありますので、海外の方を対象というだけでなく、千葉市の魅力を国内の他県の方々に向けて発信していくという意味でも、継続をしていただけたらいいのではないのでしょうか。

【文化振興財団・花澤アーツステーション室長】

ご意見ありがとうございます。

文化振興計画の中に出てくると思いますが、千葉市の魅力発信ということもありますので、内容は取り入れていきたいと考えています。

【椎原委員】

今回の事業は紙芝居を伝統文化として定義しているかと思いますが、伝統というのが少し曖昧という感じがしました。

アーティストのひがきさんの語りがどういう意味を持っているのか。そもそもそのような文化的な意味がまずあってのものなのか。あるいは、千葉の民話を伝えるということが主なのか。

その点で、それは何を伝えたいか、どういう意味があるのかというところが、ある意味、伝統文化という一言で言うことで、すごく曖昧になっているのではないかなという印象を受けます。

【文化振興財団・花澤アーツステーション室長】

このプロジェクトの中で当然、邦楽邦舞など、日本の伝統芸能を取り入れるということも考えていたのですが、私どもで運営しているアーティストバンクの中に千葉の民話をうまく伝えていけるアーティストがいたものですから、その辺を紹介しながら作ってあげればと考えました。

伝統文化にこだわりすぎてしまうと視点がずれてしまうかもしれませんが、アーティストとの関わりの中でこういった形に落ち着いてこのプロジェクトが立ち上がったというところでございます。

【廣崎委員】

たぶんこの紙芝居で何をやったかということが見えてこないの、そのような質問が出てくるのだと思います。

ひがきさん自身は方言を交えながら紙芝居をするなど、いろいろな工夫をされている方だと思います。それがこの評価の中で見えてこなかったように思います。千葉のどんな民話を紙芝居にしたのかということをお伺いしたいです。

【文化振興財団・花澤アーツステーション室長】

例えば作品としては、千葉寺で伝わっている民話を紙芝居で伝えるということを今回はやっていきました。

【神野委員長】

少し整理をさせていただきますと、ひがきさんに実際に紙芝居をやっていただくのと同時に講座をやって人材育成を行っていく。そして、若い人たちが東京 2020 オリンピックのときに訪日外国人を含めた、千葉にいらっしゃる方々に向け、何か独自のプログラムを提供できるような状況に持っていきたいということがひとつのビジョンとしてあるかと思えます。

それもオリンピックピックが延期になったことで宙ぶらりんにはなったけれども、多文化共生ということが大きな課題になって、千葉市長も非常にそこに力を入れていると私は思いますので、そういった意味では先ほど谷委員がおっしゃったように、オリンピックのイベントということではなくて、今後長く取り組むべきものとして意味づけをできるのではないかなというような非常に積極的な提言があったかと思えます。

一方で、その目的を考えたときに、椎原委員がおっしゃっていたように、どのような形で伝統をとらえて、誰に伝えるのかということによって、メディアがおそらく変わっていくはずで、そのときに紙芝居という方法の意味、可能性ということを積極的に語ってほしいなというようなご意見だったと思えます。

廣崎委員の方は、もうすでに紙芝居をやられている方の講演の中身が、もう少し見えやすいように説明をしてもらうことが望ましいと同時に、それを何のためにやっているのかが意味づけられていると椎原委員のお話にも繋がるでしょうし、谷委員がおっしゃっていることを今後どう展開するかにもつなげられると思うので、その辺をもう少し相互に要素を絡め合いながら、目的は何なのかということをしっかり再度構築し直していただくと、事業としては、非常に可能性はあるような気がします。

オリンピックの延期もありますので、今後、事業の構造を設定し直さなければいけないと思いますが、基本的な構造としては、多文化共生に繋がるような積極的な意味を持たせられるものだと思いますので、引き続き頑張っていたきたいなと思えます。

【関委員】

外国人の留学生との交流について記載がありましたが、外国人留学生がどれぐらい参加したかという記述がないのですが、どれぐらい参加されたのでしょうか。それがないと、どのような交流があったのかということもわかりづらいと思えます。

【文化振興財団・花澤アーツステーション室長】

4名です。日本語学校がありまして、国としてはバングラデシュやモンゴルの方に参加いただきました。

【神野委員長】

今のご質問は、目的に合わせてどの層に参加してもらいたいのかっていう事を明確化して、事業の中身も或いはアプローチの方法も突き詰めてほしいなというメッセージかなと思います。

いろいろ課題はあると思いますが、未来がないものではないと思います。すごく重要な事業になりうるものだと思いますので、ご意見いただいたことを踏まえて、また頑張っていたきたいなと思います。

続きまして、「音楽ファシリテーター養成講座」について、千葉市文化振興財団から1次評価シートの説明をお願いします。

<文化振興財団説明>

【神野委員長】

ありがとうございました。

「音楽ファシリテーター養成講座」については、前公募委員である鶴田委員に視察いただいておりますので、視察シートについて事務局より説明をお願いします。

<事務局説明>

【神野委員長】

ありがとうございました。

この事業については音楽と市民の関係というものをより深くより魅力的なものに、そして色々な音楽の発展や音楽を社会の中に生かしていくことを目指してファシリテーターとしてのステップアップとワークショップを作ることについて学んでいただく講座ということかと思います。まずは音楽の専門家である瀬崎委員の方からご意見をいただければと思います。

【瀬崎委員】

教育に関わるなど、千葉市の中で地域に音楽を広める方々の養成としては面白いと思います。もしそうだとしたら、一人の講師の方のアイデアをいただく場というだけでなく、できれば千葉市全体の音楽で教育に従事している方々のネットワークを広げる場としてこの事業がなされることも必要ではないかと思いました。無料で開催するのも限界があるのかなとも思いました。有料のものとの値段の差があるので、求める参加者の意識も変わってくると思います。それをもう少し掘り下げて内容を精査することによって質の高いものになると思います。

【神野委員長】

一つ目は、魅力的な何か実践をされている方の講座を受講してもらうことも重要であるものの、千葉市

の音楽と市民の関係というものを面的に捉えた時に、このような講座がどう機能するのかという問いでもあるかと思います。もう一つは、参加者のハードルの問題であり、料金についての意味や妥当性についてどう捉えているかという質問だったかと思います。

【文化振興財団・花澤アーツステーション室長】

まずは、音楽ファシリテーターという言葉や活動をより普及させていきたいと考えています。

料金面はもちろん幅広く無料でできればいいのですが、有料ということでハードルが高くなってしまっている部分は認識しているところです。そういったこともあり、事業の経費については地域創造の方に助成を申請しています。こちらは、助成を受けるにあたって有料の講座でなければいけないという要件もあり、今回は有料で実施した次第です。

ただし、参加人数の問題もありますので、今後見直しを行い、より多くの方に参加いただき、今後の普及に繋がるような事業展開を考えていきます。

【椎原委員】

このような講座をどうして自前でできないかという印象です。文化会館のファシリテーターの方を招いて開催するというのはある程度まではしょうがないとして、今後は自前でファシリテーター用の人材をこの講座で育成した人の中から採用するなどの方向性を示さないと人材は育たないだろうと思います。また、劇場や音楽堂等を活性化する場合から言うと、市民会館やホールが機関として、そういう人材を持っていないといけないと思います。そうすれば、地域創造だけでなく文化庁の活性化事業に公募することも可能ではないかと思います。

【文化振興財団・花澤アーツステーション室長】

ファシリテーター養成講座については、今期の指定管理期間から実施しているものではありませんが、先進的な取り組みをしていたのが、東京文化会館でしたので、その辺りから講師をお願いしたところがあります。今後は、自ら、こちらのホールで行った講座等の人材を活用していけたらと思います。また、助成については、色々と検討していきたいと思います。

【桜井委員】

全ての一次評価シートにいえませんが、アンケート回収の戻りが少なすぎるという印象があります。音楽ファシリテーター養成講座については、参加人数13人のところ回答が9名であるので、主催者側で事業の最終回の時にアンケートについてアナウンスをされた方が良かったかと思います。一次評価シートの精度を高めるためにもよりアンケート調査に力を入れる必要があるかと思います。特に養成講座でステップ2まで進まれた方は大変意識が高い方で、アンケートでないと拾いきれない貴重な意見が出てくるかと思いますので、アンケートの徹底と自由記述などを設けることにより、そこから意見を吸い取っていただければと思います。

【文化振興財団・花澤アーツステーション室長】

アンケートについては、今後改善をし、参加者から意見をいただきながら事業を進めて参りたいと思

ます。

【神野委員長】

フィードバックを得て、事業改善をするという仕組みを作っていくなら、その情報をどのように取っていくのか、アンケートの絶対数が少ないということであれば聞き取りを行うなど、そのあたりの改善を求めたいということだと思います。

まとめさせていただくと、このファシリテーターを育成する事業というのは重要な事業であるということには変わりはないので、継続して頑張っていたいただきたいというのはどの委員の方も同じかと思えます。ただし、その中でもアプローチの方法や戦略、あるいは財団そのもののメッセージが何なのかということがとても重要ではないかと思えます。同じワークショップであっても音楽との関係性などでそれぞれ実施主体の考え方によって個性が出てくる必要があるかと思えます。県など、色々な文化ホールと情報共有を進めることによりその個性が出てきて、その中で、千葉文化が形作られていくということかと思えますので、この部分はより一層充実させていただきたいと思えます。

それでは、続きまして、「市民文化育成事業（美浜文化ホール）」について、1次評価シートの説明をお願いします。

<美浜文化ホール説明>

【神野委員長】

ありがとうございました。それでは質問、ご意見等をお願いいたします。

それでは、私から質問させていただきます。浴衣の着付けということが中核にある事業だと思えますが、そのことがどのようにおもてなしということに繋がっていくのかを想定していたか、お聞きしたいです。

【美浜文化ホール・太田館長】

今回はワークショップの入り口として浴衣の着付けということを行ってきました。ひとつの出口としての考え方としては、他事業の受付ボランティアとして浴衣でお迎えをしてもらうこと。そして、オリンピック・パラリンピックの開催地である千葉市民として訪日外国人をお迎えするという気持ちを学んでいただきたいという目的でワークショップを企画した次第です。オリンピック・パラリンピックが本来のとおり開催されていれば、海浜幕張等で浴衣を来て、オリンピックの雰囲気を楽しむというという企画の実施を考えていました。

【廣崎委員】

子どもたちを対象とした事業の応募人数が少ないことについては、今後どのように開拓していこうという考えをお持ちでしょうか。

【美浜文化ホール・太田館長】

美浜文化ホールでは、通常、年に3回ほど、子ども向けの事業を行っています。そこでは、定員に対し

て8割から9割の参加実績があります。しかし、その中で今回のワークショップに関しては、極端に人数が少なかったことがあります。その理由としては、夏休みではありますが平日に事業を開催してしまったこと。次に、日本舞踊を学ぶ、浴衣の着付けということで敷居が少し高くなってしまったのではないかと思います。美浜こどもまつりなどと同時開催するなど経費を抑えたり、敷居を下げるような工夫ができたのではないかと思います。

【谷委員】

親子をターゲットとした企画ということですが、色々な親子の形態があるかと思います。市という税金を使って行う事業として、親子をターゲットとしていればいいよということでもないかと感じました。

【神野委員長】

親子という切り口は一般化しているが、他のアプローチも必要な時代かもしれないということですね。その辺りについては、何か考えはありますでしょうか。

【美浜文化ホール・太田館長】

今すぐに、新しいアプローチということは難しいですが、一例としては、美浜キッズサポーターというサービスを行っております。市民の方から寄付を募ったり、ホールのコンサートの招待チケットをいただいたりして、そこに親子で参加していただくというサービスです。先ほど、色々な親子の形態というお話がありましたが、美浜文化ホールとしては、保健福祉センターと隣接した施設ということもあり、なかなか文化芸術に触れることができない親子がいるということも認識しております。そのような親子も含め、色々な親子が芸術文化に触れていただくような事業を行っております。

【椎原委員】

指定管理者として企業体の形態をとられていますが、企業体のコンテンツを活用した事業なのか、それとも自前で準備した事業なのか教えていただけますか。

【神野委員長】

強みを活かしているかということですね。

【美浜文化ホール】

9割については、美浜、若葉文化ホールの自主制作した企画で行っております。ただし、自主事業については、弊社が制作しているエンターテインメントの企画を提供することもあります。

【桜井委員】

チラシの中で気になったのが、第一印象ですが、イラストを見るとお母さんと子どもを対象としたイベントなのかなという感じを受けました。様々なかたちがあるということで、祖父母や父親とも参加できるようなことがわかるような工夫が必要だと思いました。また、浴衣や日本舞踊については祖父母の世代の方が関心や造詣が深いということもあるかと思いますので、そのような形態も参加できるという

ころも伝わると参加のニーズも広がるかと思いました。

【神野委員長】

ジェンダー的な視点や多様な家族の形態があるという現代的な課題を踏まえた広報戦略や枠組みが求められていくということが重要じゃないかというご提案だと思います。ここは千葉市自体としてのメッセージにもなっていく部分かと思いますのでしっかりとやっていただきたいと思います。

また、私の方からの意見ですが、参加者自身の満足度もそうですが、もう一つ重要なのが文化として広がっていく時に自分が認められているという感覚だと思います。そのためにも、講座を行う時に、それを披露する場をセットとして設けていくということが重要かと思います。会社の専門がエンターテインメントであるという強みというのは、まさにそういったところに繋げていけるのではないかと思います。その強みを活かして、講座でやったことがもっと広がって、みんなが憧れるような場を作れていければいいのかなと思いました。いろいろな家族の形態がある中で、参加の仕組みは工夫していただくとして、この事業自体をどう意味づけていくのかということも踏まえてさらに発展していただけたらと思います。

【種谷副委員長】

親子で参加ということでしたが、中学生くらいですと友達同士の方が参加しやすかったのではないかと思います。中学生はどれくらい参加されているのでしょうか。

【美浜文化ホール】

中学生と小学生の兄弟が母親と祖母の4名で参加されたというケースがありました。

【高梨委員】

美浜文化ホールの近くは古いマンションが多いかと思います。地域もマンションによって年齢層が違うので、そのあたりは分析して、事業内容も検討していただけたらと思います。

また、オリパラの時だけでなく、事前にいろいろとやっていくことも必要かと思います。例えば、浴衣ということですので、実施時期も団地の祭りや花火大会などを考慮して決定していくなどいろいろと工夫ができるかと思います。そのあたりを踏まえ、事業を発展させて行っていただきたいと思います。

【関委員】

チラシには、講座受講後の取り組みは任意参加とはありますが、スタッフとして参加しなければならないような印象を受けると逆に参加に繋がっていきにくいのではないかと思います。そのあたりのやり方を慎重に進めることが必要かと思いました。

【神野委員長】

あくまで事業実施後の取り組みは、自発的に繋がっていくことが前提で、それが動員のように見えてしまうと事業の意味づけが変わってしまうということですね。色々な課題があるかと思いますので、よりよい方向に持って行っていただければと思います。

続きまして、「市民文化育成事業(若葉文化ホール)」について、1次評価シートの説明をお願いします。

<若葉文化ホール説明>

【神野委員長】

ありがとうございました。

この事業の位置付けられる基本施策が文化芸術活動を支える人材の育成ということですが、施策の位置付けとして少し違うのではないかと思いました。障害者の方が文化芸術活動に参加する上でそれをサポートするボランティアの育成などということであればわかるのですが。その辺りがどのような捉え方なのかということをお伺いしたいと思いました。

【若葉文化ホール・高藤館長】

障害者の方々も様々な可能性を持っていますので、こういった場を提供することが広い意味での文化芸術のマネジメントを行なっていく人材の育成に繋がっていくのではないかと考えています。

【神野委員長】

その位置付けだと少し厳しいかと思えます。事業自体は素晴らしいと思えますので、位置付けについては検討いただければと思います。

【高梨委員】

講師であるアーティストの方と一緒に、介護の方や学生、親などに参加いただいてそういった方たちに広めていくということが大切ではないかと思いました。育成とはそういったものではないでしょうか。

【神野委員長】

講師と受講生ではなく、その間に様々な人に参加していただく枠組みをデザインしていくのはどうかという提案かと思えます。

【若葉文化ホール・高藤館長】

おっしゃる通りですので、こちらでアイデアを膨らませながら検討を進めてまいります。

【藤田委員】

小規模の学校や関心を示さない学校もあるようですが、そういった学校に対するアプローチはどのように考えているのかお伺いしたいです。

【若葉文化ホール・野崎企画広報担当】

全校生徒が10数名という学校もありますので、そのような学校の場合、どこまで費用をかけていいかが課題となっています。講師1人を呼ぶのには、生徒数が多い学校も少ない学校も同じように費用がかかります。ホールに来ていただくという方法もあるのですが、授業時間内での参加などの制

約があるため難しいケースもありました。こちらについては、クリアしないといけない課題だと認識はしているのですが、費用の面なども含めて厳しい部分もあるというのが現状です。

【神野委員長】

事業の内容そのものは素晴らしいと思いますが、やはり目的というものがあると思います。障害を持った人たちが多様な文化プログラムに参加しづらいという状況に対し、アウトリーチをしていくという性格が強い事業だと思いますので、それを持続的に実現していくためにどういった体系構築が必要かということを考えていく必要があるかと思います。先ほど高梨委員がおっしゃったようにアーティストを呼ばなくても内容のあるワークショップをホールが作り上げ、それを学校に行って行えるようなボランティアがいればそこまで費用はかからないと思います。そういった人材育成を行っていくというプログラムであれば説得力もありますし、若葉文化ホールがそういうふうにもその問題を捉え、公益性の高い事業を実施しているというアピールにもなりますので、そのあたりを工夫いただければと思います。

【種谷副委員長】

この事業の内容については、とても意味のある事業だと思います。人材育成ということに着目するのであれば、この事業については、アーティストと生徒の間にいた担任の教師といった方々がとても勉強をされたのではないかと考えます。そのような担任の教師にもう少し役割を担ってもらい、その人たちを育てるというところに注目をしていただけたらと思いました。

【椎原委員】

千葉市にも障害者を対象とした施策があるかと思いますが、そういった事業とのすみ分けや協働といった考えはお持ちでしょうか。

【若葉文化ホール・野崎企画広報担当】

文化振興課が実施しているチバフリなどと連携できればいいなと考えているのですが、障害者の作品制作等については、名前の公表をさけてもらいたい保護者がいるなど、発表の場については、検討しなければならない課題があります。その中でも、今後も千葉市と連携できることは考えていかなければならないと認識しておりますので、検討を進めてまいります。

【神野委員長】

ありがとうございました。

それでは、続きまして、「高校生美術館体験プログラム」について、千葉市美術館から1次評価シートの説明をお願いします。

<千葉市美術館説明>

【神野委員長】

ありがとうございました。それでは、質問、意見等はありませんでしょうか。

【椎原委員】

参加者が一人ということですが、これは事業として成立しているとは言い難いかと思います。人が集まらなかった理由についてはどのようにお考えかお伺いしたいです。

【千葉市美術館・山根学芸員】

これまでは、高校の顧問の先生からリクエストがあった学校を中心に声かけをし、参加人数を取りまとめてもらっていましたが、今回については、高校生に自主的に参加できる機会を作りたいという考えから公募にて募集を行いました。広報については、これまでと変わらず、千葉市の学校の美術部が展示を行う場やWEBサイトでも周知をしたのですが応募がなかったという状況です。

事業については、人数が1名でしたので、既存のアーティストプログラムに組み込む形で実施しました。当初の形では実施できませんでしたが、そこでは見込まれていなかった体験ができたのではないかと思います。参加者1名ということを実際に受け止め、次回は中学生から高校生という、年齢に幅を持たせた形で募集を行なっていくことを考えています。

【椎原委員】

1名だから別プログラムに入れ込んだということは理解できるのですが、公募の是非について美術館側がどのように考えているのかということが一番重要な問題だと思います。なぜ公募で人が集まらなかったのかという分析は難しいかもしれませんが、そこを行わないと中学生まで範囲を広げても人が集まらないのではないかと思います。

【千葉市美術館・山根学芸員】

このような高校生向けのプログラムを公募するということが初めてであったため、反省材料しかないのですが、公募という方法は今後も継続を考えていますので、公募しつつ効果的に声かけを行う必要があるかと思っています。

【関委員】

チラシを見ても高校生に何をしてほしいのかということが伝わりにくいと思います。どのような高校生に参加してもらいたい事業なのでしょうか。将来的に美術館スタッフを育てるという目的があるのでしょうか。

【千葉市美術館・山根学芸員】

目的としては、高校生に進路の一つとして検討してもらえそうな機会を作りたいということがあります。

【関委員】

それであれば、そのあたりをもう少し盛り込んだ表現にする必要があるかと思っています。

【神野委員長】

評価がこのような状況で「4」が多いのですが、これは、解釈によっては、美術館が考えたことは間違っていないが、人が来ないのが悪いという考え方を持っているかのような印象を受けてしまいます。また、美術館が拡張リニューアルして、教育系のフロアがワンフロアできるという状況の中で、この状況はとても心配です。これは、先ほど関委員のおっしゃった、何をしたいのか、何を求めるのかという意図が募集のチラシから伝わらないという問題とも繋がるのではないかと思います。

【桜井委員】

進路的に美術館スタッフを育てるということであれば、公募の際にキャリア学習的なキーワードを入れるといいのかと思います。そうすることによって保護者の方もお子さんへのアドバイスがしやすいですし、美術館にわざわざ足を運んでもらえるのではないかと思います。

【種谷副委員長】

もし1人しか応募がなかったのであれば、他の学校に働きかけをして募集をするなど、もう少し働きかけが必要だったのではないのでしょうか。1人で参加した方がどういう感想をもったのかということが少し心配になりました。

【神野委員長】

実際に働きかけはおこなったのでしょうか。

【千葉市美術館・山根学芸員】

はい。過去に参加いただいた学校や知り合いの先生に電話にて連絡をしました。

【高梨委員】

学校側がなぜ、関心を持たれなかったのかということはお伺いになっているのでしょうか。

【千葉市美術館・山根学芸員】

今回は、こちらの方法に至らない点があり、学校側に生徒たちへのアナウンスをお願いしたのですが、その後のフォローまでをお願いしきれていなかったということがあります。次回は日時の設定等についても学校の個別の状況を調べて徹底していきたいと思っています。

【関委員】

今回の事業については、アーティストと触れることによって美術に関心を持つということが繋がらないような気がします。アーティストとアート、美術館のスタッフという要素が混在してしまっているような気がします。

【神野委員長】

何が体験できるのかが不明確ということですね。

美術館にフロアが増えて今後、積極的に裾野を広げていく活動を行なっていくということは変わらないと思いますが、その一翼を担う事業として考えると課題が多いのではないかと思います。この体験で何を学んで欲しいのかというメッセージを明瞭にして、体験の中身をデザインし、広報として示していく。そしてそれが世間のニーズと合うようにきちんと整備していくことが必要かと思えます。美術館の教育プログラムは非常に期待されているところであります。千葉市の美術教育の水準はあまり高いとは残念ながら言えないため、美術館にリードして欲しいという気持ちもあります。今回厳しい意見が出ましたが、抜本的に考え直してほしいと思えます。

続きまして、「市民ギャラリー・いなげ講習会」について、市民ギャラリー・いなげから1次評価シートの説明をお願いします。

<市民ギャラリー・いなげ説明>

【神野委員長】

ありがとうございました。

中学生の参加者が11名あるものの、全員同じ学校からの参加者ということが課題とのことですが、今後何か対策はあるのでしょうか。

【市民ギャラリーいなげ・行木学芸員】

市民ギャラリー・いなげとしては、SNSの発信が弱い部分がありますので、TwitterやFacebook、Instagramなどを連動させて広報を進めていくことを検討しています。

【桜井委員】

今後も継続される事業かと思いますが、大人のリピーターを増やすということであれば、リピーター割引などを設けていただくと大人の参加が見込まれると思います。

【関委員】

泉谷中学校の学生が参加してくれた理由はこういったことがありますか。

【市民ギャラリーいなげ・行木学芸員】

泉谷中の先生は、美術部の活動として、校外でのイベントに学生を積極的に参加させようという意識が高い方たちだったということがあるかと思えます。

【関委員】

そう考えると先生の考えは大事ですね。

【神野委員長】

文化施設に面白いプログラムがあって、そこに関わることによって生徒や教師たちによい影響があるということを知っている先生であり、そういった人を増やしていくことが大切なのでしょうね。

【藤田委員】

中学生の方に、次回以降も参加してもらえようような継続的な呼びかけをしているのでしょうか。また、大人のリピーターがいらっしやる中でそこに中学生、高校生が混じるとお互い求めるものが違ってくると思いますが、それについて考えはありますでしょうか。

【市民ギャラリーいなげ・行木学芸員】

現在、具体的な対策はできていない状況です。経験値や年齢層が違う人たちが集まることにより、それぞれの考え方を知る良い機会になればいいとも考えていますが、一方でリピーターの方にとっては物足りなさを感じてしまうという側面があることも感じています。中学生については、スマートフォンで撮影を行う講座を独立させて実施するというのも可能性としてはあるかもしれませんが、具体的な案までは出ていない状況です。

【関委員】

その辺りは講師の腕の見せ所という気もしますね。事業の実施方法については、講師の考え方もあるのではないのでしょうか。

【高梨委員】

同じ講座を時間差で実施するというのも可能ではないのでしょうか。それによって新しい方たちとリピーターの方の違いも見えてきていいかもしれません。そのあたりは工夫が必要かと思います。

【神野委員長】

市民ギャラリー・いなげで大学生と社会人を一緒に授業をやらせてもらっていますが、学生と社会人は双方にいい影響を与えあっている印象があります。活動の場も違うし、見えている景色も違うので写真の講評をとおして、視点の違いからくる面白い相乗効果のようなものがあります。

ただ、一般の方と中学生ということであるとそれよりも開きがあるのでかもしれませんので、そのあたりも踏まえて検討をしていただきたいと思います。

以上で議題2を終了とさせていただきます。

議題3、4についてですが、本日は時間的に議論できないと思いますので、こちらについては、文化振興課長から説明をお願いいたします。

【小名木課長】

議題3の令和2年度評価対象事業につきましては、事務局にて、候補となる事業を仮として選定させていただきます。委員の皆様には、後日、事務局が選定をした事業につきましてメール等でご確認をいただき、正式な選定事業を決定させていただきます。

続いて議題4ですが、こちらにつきましても資料をご確認いただいた上で、ご意見、ご質問がある場合には、事務局までメール等でご確認をいただきますようお願いいたします。

【神野委員長】

本来であれば、議題全てを終了できればよかったのですが、評価については、非常に有益なご意見をいただいておりますので、仕方がなかったのかなと思います。進行に関しては、今後、事務局とも相談をして方法を考えていきたいと思います。

続いて、事務局から芸術文化振興補助金について、説明があるとのことですので、よろしく願います。

<事務局説明>

【神野委員長】

ありがとうございました。

中止になった事業もありますが、これから実施される事業について視察を希望される場合は事務局までご連絡ください。

それでは以上で本日の議事は終了します。